

第16回 網走開発建設部 総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	平成26年 2月28日(金) 網走開発建設部 第1会議室	
委員	黒瀧 秀久(東京農業大学教授)、高橋 清(北見工業大学教授)、 三上 修一(北見工業大学教授)、渡邊 康玄(北見工業大学教授) (五十音順)	
議事	<p>1. 平成25年下期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況について</p> <p>2. 個別審査 工事の審査について ①北海道横断自動車道 訓子府町 第1ホヅケ川橋上部工事(技術提案評価型(S型)) ②常呂川改修附帯工事の内 蘭栄橋上部工事(標準Ⅱ型) 業務の審査について ③斜里川地域 事業計画策定業務(簡易公募型プロポーザル) ④網走管内 漁港施設機能保全計画書策定業務(簡易公募型プロポーザル)</p>	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		
意見・質問	説明・回答	
<p>1 平成25年下期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況 総合評価落札方式業務において、逆転率(価格点1位でない者が落札した率)が高いのは例年の傾向か。</p> <p>工事の二極化後の落札者と非落札者の得点率の差は、今後、明確になっていくのか。</p> <p>2 個別審査 ①北海道横断自動車道 訓子府町 第1ホヅケ川橋上部工事(技術提案評価型(S型)) 二次技術提案を求める対象者数が競争参加者の10者と同数であるが、受発注者双方の事務量軽減は図られなかったということか。</p> <p>技術提案の評価値が上位社では僅差となっているが、各社の技術力の差が適正に落札に反映されているのか。</p>	<p>平成24年度及び平成25年度の比率(発注者支援業務を除く)は、3~7割で推移している。</p> <p>データを集計することで、今後その傾向が明らかになってくると思われる。</p> <p>多くの競争参加者が見込まれると考えていたが、参加者が10者であったことから、結果として絞り込みがなされなかったものである。</p> <p>参加者は、技術力が高く実績も多くあることから、技術的評価に大きな差が出なかったものと思われる。</p>	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	説明・回答
<p>②常呂川改修附帯工事の内 蘭栄橋上部工事（標準Ⅱ型） 応札した2者は、技術提案の評価点に差がなく、主に配置予定技術者の評価点の差により落札者が決定されている。 今後は、より具体的な提案を求めるなど応札者の技術力を発揮しやすいようにしていくことが望ましいと思う。</p> <p>また、技術提案の評価結果は、応札者に知らせているのか。</p> <p>③斜里川地域 事業計画策定業務（簡易公募型プロポーザル） 技術提案の内、「その他の提案（業務に関する知識、有益な代替案及び重要事項の指摘）」を記載していない者が3者あるが、これは業務内容が提案しづらいものであったからか。</p> <p>入札参加者の5者選定において、企業及び技術者の評価項目の配点が5点刻みになっていることから、5位が同点で複数者になり、5者を大きく上回ることはないのか。</p> <p>④網走管内 漁港施設機能保全計画書策定業務（簡易公募型プロポーザル） 評価テーマに係る的確性及び実現性の評価方法は、各事業部門間で統一されているのか。</p>	<p>材料と施工上の各課題について提案を求めたが、結果として差がつかなかった。 御意見は、今後、提案内容の検討に生かしたい。</p> <p>各社の評価項目毎の加算点はホームページで公表している。</p> <p>各者は、同種業務の実績を有しており、提案をできないことはなかったと思われるが、各者の判断によりこのような結果になった。</p> <p>これまでの状況から、そのような状況になる可能性は少ないと考えられる。</p> <p>基本的な評価方法は統一されているが、評価のポイントは、業務の特性を考慮して設定している。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>